

JICA事務所長報告会

ブラジルおよびホンジュラス

JICA、国際協力機構は、中南米（ラテンアメリカ・カリブ）地域 33 か国のうち 23 か国に拠点を設け、現場のニーズを収集・分析しながら、日系企業を含む多様なパートナーと連携しつつ、技術協力、資金協力、民間連携事業、ボランティア派遣など、さまざまな国際協力を行っています。

「グローバルサウス」と称される国々が台頭する国際社会でプレゼンスを高めているのがブラジル。2024 年は G20 の議長国として、貧困・飢餓の解消と社会包摂、そして気候変動を含む持続可能な開発等に優先的に取り組むとしており、ルーラ大統領の手腕が問われる年でもあります。また、近年、中南米諸国と中国の経済的な相互依存関係は一層強まっています。こうした状況下、23 年、台湾と断交し中国との外交関係を樹立したのがホンジュラス。米中対立が深まる中、中南米地域は国際社会におけるパワーバランスの変革の時期に直面していると言え、両国の今後の開発の行方が注目されます。

今般、ブラジル、ホンジュラスの現場で陣頭指揮をとられている所長を講師としてお迎えし、報告会を開催致します。それぞれの国で体感された社会、経済等の実態に加え、活動状況、協力の方向性をご報告いただきます。

日時：2024 年 4 月 16 日（火）午前 10 時～11 時 30 分（日本時間）、4 月 15 日（月）夕刻から夜（中南米時間）

形式：zoom 方式

1. コロナ禍から G20 に至るブラジルでの 3 年間を振り返る

江口 雅之 JICA ブラジル所長

着任時には毎日 2～4 千人の新型コロナウイルス感染死者を生んでいたブラジルで、JICA がどのようなコロナ対応の協力を行ってきたのか、国民を二分する激しい選挙戦を経て右派から左派へ政権が交代し、グローバルサウスの旗手として再び国際場でプレゼンスを高めているブラジルに対して JICA がどのような国際協力を行い、これから行おうとしているのか、また、世界最大規模の 2 百万人の日系社会を擁する日系社会の現状課題と JICA の取組について、現場で感じた「熱」を聴衆の皆さんへお届けします。

2. ホンジュラスは何処へ行くのか。JICA に何ができるのか。

篠 克彦 JICA ホンジュラス事務所長

コロナ禍のさなか、2020 年 11 月に相次いで襲来した熱帯低気圧 ETA、IOTA により甚大な経済的被害を受けたホンジュラス。もともと 1 人当たり GDP が中南米で下から 3 番目の当国に

とって、社会や経済に成長を取り戻すことは容易ではない。治安問題や汚職問題、そして不法移民問題なども、健全な成長にとっての阻害要因となる。そうしたなか、2022年1月に発足した左派のシオマラ・カストロ政権は、何を指し、中国との国交樹立に何を期待するのか…。

社会のニーズや現政権の方向性をどう読み解いてきたか、そしてJICAとしてどういった貢献を目指しているのか、現場の視点をお伝えします。

【講師】

JICA ブラジル 江口 雅之 (えぐち まさゆき)



1991年海外経済協力基金に入社。国際協力銀行を経て、2008年から国際協力機構へ勤務し、総務部業務運営評価課長、企画部課長、評価部次長等を歴任。2021年1月から2024年3月までサンパウロのブラジル事務所で勤務。ブラジル勤務は3回に亘り、計10年+@。

<https://www.jica.go.jp/overseas/brazil/office/about/greeting.html>

JICA ホンジュラス事務所 篠 克彦 (しの かつひこ)



青年海外協力隊（コロンビア：組織培養）、JICA 企画調査員（エルサルバドル：震災復興支援促進、パラグアイ：協力案件再活性化）を経験した後、2006年にJICAに入構。農村開発部（現 経済開発部）、資金協力支援部（現 資金協力業務部）、ニカラグア事務所、中南米部を経て、2021年3月よりホンジュラス事務所長。